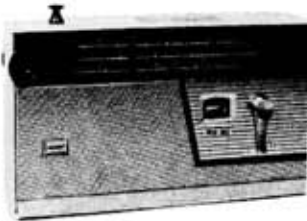


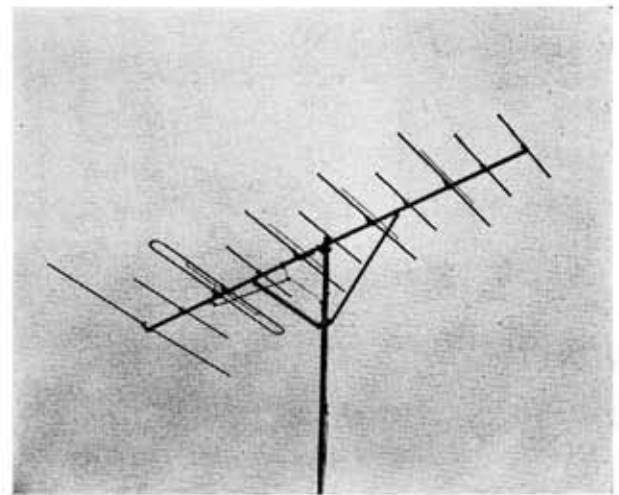
第54図 “アイリオン” STX-850



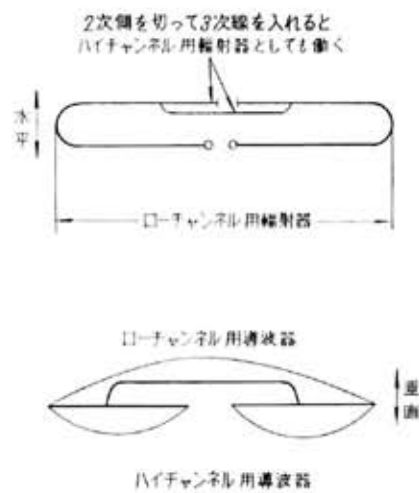
第55図 高級3バンドラジオ “ベギー” WH-817



第56図 高級2バンドラジオ “テリー” WH-855



第57図 「Dマッチ方式」複合オールウェーブアンテナ(11素子)



第58図 「Dマッチ方式」複合アンテナ

### 7.4.1 テレビ

テレビ関係では、広い需要層に満足のゆくように、機種の実用を図った。たとえば、テレビとして最低限必要と思われるもののみとしたシンプルなものから、徹底したデラックス形のもの、さらに特筆すべきものとして、世界最初の16形ポータブルテレビや、高性能電子管ニュービスタ使用による高感度のものなどである。一方輸出向の専用機種としては各国まちまちの仕様に即応できる設計のものを各種完成した。なお、カラーテレビの回路簡素化、実用価値の十分に高いトランジスターテレビ回路、UHFテレビコンバータの完成など成果をあげた。

#### (1) “シルビア” FY-940

テレビとして最もシンプルなものであるが、性能的になんら劣るところはない。むしろ、チューナ回路に従来使用していた4R-HH2よりさらに高感度、低雑音で、より安定したフレームグリッドタイプの4R-HH8を採用し、映像中間周波回路に4GM6を採用するなど、従来の機種に比べ、高感度で安定性が向上している。

#### (2) “スザンナ” FY-810

この機種は前面に低、高音それぞれ専用のスピーカを配し、音響的には従来よりもバランスのとれたものである。デザイン面においては、需要者から圧倒的な支持を受け、デザイン面でのテレビに対する一つの典形ともいえるものである。

#### (3) “オフエリア” FY-250

この機種は特に音響面に力を注いだもので、セット前面に低、中、高音専用のスピーカ3個を配し、また音声出力回路には6BM8をプッシュプル回路として使用し、いままでにない音響効果をあげている。

#### (4) “アイリオン” STX-850

従来の14形ブラウン管から一步飛躍し、画面の四隅を拡張した世界最初の“16形ワイドスクエア”ブラウン管を採用、奥行の浅い利点を生かした本格的可搬形真空管式テレビである。

### 7.4.2 テレビ受像用アンテナ

#### (1) Dマッチ方式複合アンテナ

従来八木タイプのアンテナは非常に特性の良いものとされているが、単一チャンネルがカバーできず、わが国テレビ放送の実情

から見て12チャンネルのすべてをカバーする、すぐれたアンテナが望まれていた。

この目的に沿って開発されたのが複合アンテナである。複合アンテナは図のように輻射器と導波器が特殊な形状をしており、受信周波数に変化しても平坦なインピーダンス特性が得られる、指向特性がすぐれている、2段4段の積み重ねが容易である、という特長を持っている。

この複合素子の開発によって、11素子オールウェーブアンテナまで商品化され、現在弱電界や微弱電界でも容易にテレビ受信が行なえるようになっている。またカラーテレビの受信に使用される色の忠実な再生に大きく寄与している。

### 7.4.3 ラジオ

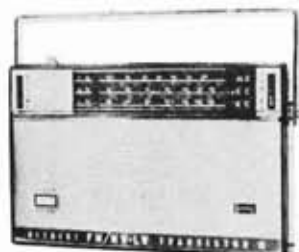
ラジオ受信機についてはこの一年間に海外でも高く評価される製品を多数世に送り出してきた。これは性能的にすぐれていることはもちろんであるが安定した品質を保持していることを示しており、これが日立ラジオの今日をささえているものといえる。ここにその代表的な機種を採りあげて紹介する。

#### (1) “ベギー” WH-817

短波も3.8 Mcから18 Mcまで受信できる3バンド高級ポータブルラジオである。高周波増幅一段を含めて日立メサタイプトランジスタ3石(2SA130, 2SA131, 2SA132)を使用しているため全受信帯域においてすぐれた感度を有している。さらに同調指示計も備えたファインチューニング方式を採用しているので短波帯でも容易に同調できる。また同調指示計で電池の消費も一日で



第59図 超小形ポケットブル  
ラジオ“アニー”TH-660



第60図 高級FM/AM  
ラジオ XH-1002

わかるようになってきている。夜間でもブッシュボタンを押せばランプがつき楽に放送が選択できる。また外部入力端子を利用すればレコードプレーヤを用いて電蓄として使用できる。機構面ではギヤドライブ方式、バンド切換えのレバー方式を採用したので簡単に操作できる。

(2) “ケリー”WH-855

日立メサタイプトランジスタ2石を使用した8石2バンドポータブルラジオで高感度低雑音のセットである。特に回路、スピーカともに音質に重点をおいて設計されているため澄んだ音が聞かれる。またロッドアンテナ内蔵によりその取はずしの必要がなくなった。

(3) “アニー”TH-660

本機は日立メサタイプおよびリングベーストランジスタを使用した高感度の超小形ポケットタイプであり、温度変化に対しても新形日立サーミスタを使用しているのできわめて安定である。キャビネットにはサイクロラック材料を用いたので衝撃に強く光沢があり、しかもソフトな感じがする。電池の取替えはケースの底面を開閉するだけで簡単迅速に行なえる。

(4) XH-1002

本機は長波、中波、FMの3バンドポータブルタイプでおもにヨーロッパ向輸出用高級ラジオである。回路は6個の日立メサタイプトランジスタを含めて10個のトランジスタを使用し、シリコンダイオードによる自動周波数調整回路、高インピーダンススピーカによる出力トランスレス回路の採用など、感度、出力、音質そのほかあらゆる面で新しい考慮が払われている。検波出力およびPU端子も設けられてあるので放送をハイ・ファイで聞くこともできるし、電蓄にも利用できる。機構面でもバンド切換えのブッシュボタン方式、ギヤドライブによるダイヤル機構、ダイヤルランプの採用、首振りアンテナの使用など操作が簡単に行なえるように設計されている。

7.4.4 ステレオ再生装置

ステレオ電蓄の生命である音質に関して、従来は主として測定器による物理的特性に依存してきたが、物理的特性と心理的な好みとの関連を検討して良い音の究明を行ない、他社をしのぐ音響特性をもつ製品ができるようになった。

(1) DPS-849および849R

キャビネットがデラックスなうえにこのクラスの電蓄の常識を破って20cmスピーカを2個使用しているので、迫力のある忠実な音を再生することができる。SG-849Rではさらに出力を増大しているの、普及形のセットとは思えない豊かな音を再生する。ビクアップはターンオーバーによってSPとLP・ST(ステレオ)とを切り換えている。

(2) DPS-961

シックなデザインでハイ・ファイ用の20cmスピーカを2個使用し、60~13,000c/sまでくせのないすばらしい音を再生する。



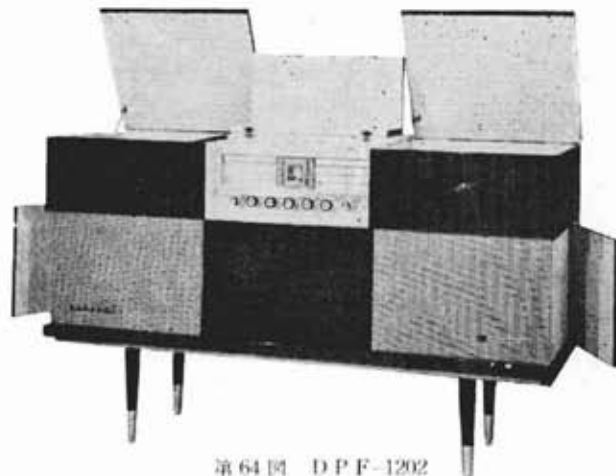
第61図 DPS-849R



第62図 DPS-956



第63図 DPS-961



第64図 DPF-1202



第65図 TRQ-720 高級テープレコーダ



第66図 TRQ-399  
ポータブルテープレコーダ



第67図 磁気テープ

ラジオ部分はフェライトアンテナを使用して感度を上げ雑音を少なくしている。ピックアップはモノラルとステレオにそれぞれ専用のカートリッジを用いたプラグイン式である。

(3) DPS 956

ヨーロッパ風の明るいデザインで 20 cm および 16 cm のハイ・ファイ用スピーカをおのおの 2 個ずつ使用し、低音から高音まですべての音をむらなく再生することができる。またキャビネット側面のリフレクタで音の広がり自由に変えられる。フェライトアンテナ自蔵、テープレコーダ、FM チューナなども接続できる。ピックアップはプラグイン式である。

(4) DPF-1202

豪華な高級キャビネットにハイ・ファイ用の 20 cm および 16 cm のスピーカを 2 個ずつ使用し、スピーカボックスは密閉形になっているのできわめて高忠実度の音を再生する。ラジオ部分は普通の国内放送、短波放送のほか FM 放送も受信できる。フェライトアンテナ自蔵、リフレクタ付き、テープレコーダ、FM チューナ、TV なども接続できる。

このほかステレオラジオ付き電器では横形として DPS-1057 (2 万円級)、DPS-1033 (3 万円級)、縦形としては DPS-531 (3 万円級)、またプレーヤとして DPO-072 (5 千円級)、DPO-071 (6 千円級) を製品化した。これらのセットは中波バンドが 2 チャンネルであるからステレオ放送が受信できる。

7.4.5 テープレコーダ

昭和35年度より日立の新製品として登場したテープレコーダも市場において着々とその地歩を固めつつあり、その第一陣として発売された TRQ-370 は国内はもとより国外においてもその高性能が認められ輸出も逐次伸びつつある。一方 TRQ-370 に引き続く第二、三陣として、TRQ-720、TRQ-399 が発売され、その機種もようやく充実されようとしている。

(1) TRQ-720 家庭用中形テープレコーダ

AC ラインを電源とする一般家庭用中級テープレコーダで、木製レザー張りキャビネットに取められ、キャビネット前面に取付けられた 15×25 cm というこのクラスにははかに類を見ない高忠実度大形円スピーカによって、すばらしい再生音を楽しむことができる。また操作は押ボタン方式を採用して取扱いを容易にしてあり、その動力源であるモートルには、4 極コンデンサラン形日立モートルを使用して速度偏差や回転むらの軽減を計っている。そして増幅回路はオールドレンジスタ化されているため、消費電力が約 40 W と少なく、電源スイッチを入るとただちに動作する。

(2) TRQ-399 ポータブルテープレコーダ

TRQ-370 シリーズのポータブルテープレコーダで、電力容量の割合に価格の安い単 2 号乾電池 4 本を電源としているが、AC アダプタの使用も可能となっている。操作はレバー式を採用し、小形ながら早送りも備え、取扱いの便を図っている。またこの種

小形セットとしては最大の 7×10 cm スピーカを前面に配し、500 mW という高出力と相まってすぐれた音響特性をもたせたため、人の肉声はもちろん、軽音楽程度の録音再生も十分に楽しめる高水準の製品である。

7.4.6 磁気テープ

最近急速な伸長が見られる小形録音機の普及に伴い長時間録音可能な薄手テープが要求されている。35 μテープは一般に使用されているリールに長さ 1.5 倍のテープを巻くことができ、したがって 1.5 倍の録音時間を有するテープであり、そのうえ次の特長をもっている。

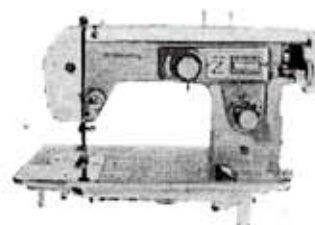
- (1) 磁性材料に高感度の微粒子が用いられ、それが均一に分散しているので高周波特性が基準品に比べ 3 dB 高い。
- (2) 磁性膜の摩耗が少なく数百回使用後も音質の低下がなく半永久的に保存できる。
- (3) 帯電が大きいと雑音の原因になったり、テープの走行障害になって音質を害するが、35 μテープは特殊な帯電防止剤で表面処理をしているためほとんど帯電が認められない。この 35 μテープの出現は乾電池式小形録音機の利用率を高め、また一般からも長時間録音用として重宝がられている。

7.5 ミシン

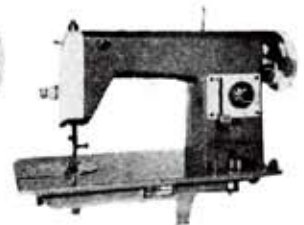
35年秋発売以来、爆発的な人気をよんだセミジグザグミシン Z S-100 形を、さらにより使いやすく改良した Z S-110 形は、折からのジグザグミシンのブームにのって順調な伸びを示し、今後続々開発が見込まれている日立ジグザグミシンシリーズの第 2 弾として新しい需要層の開拓に大きな戦力となっている。

また日立ミシン発売以来ミシンの標準形として定評のある H C-220 形に代り、新たにミシンライトを内蔵しダイヤル式送り調節機構をもった角形カム式ミシン H C-450 形が発売され、そのスマートなデザインと相まって早くも若い女性層の標準形ミシンとして確固たる地位を築きつつある。

なお 36 年秋発売された H L-520 形は、従来のバック巻の場合のプッシュボタンを押し続けることの手間を省いた両期的なバック



第68図 Z S-110 形ミシン



第69図 H C-450 形ミシン